



ピースボート地雷廃絶キャンペーン
P-MAC 報告書 2009

はじめに

ピースボート地雷廃絶キャンペーン P-MAC の活動にご協力いただきまして、ありがとうございます。

1998年、ピースボートはカンボジアを訪れました。当時、世界中の国々で地雷問題は危機的状況を迎える、「20分に1人」世界のどこかで被害者がでていました。中でも私たちが訪れたカンボジアは、もっとも地雷問題が深刻な国の1つ。町には手足を失った人々が行き交い、物乞いする人も多く見かけられました。医療の整っていない病院には、次々と被害者が運び込まれていました。そして地雷原で、命がけの地雷除去作業を行う人々にも出会いました。手足を失いながらも必死に生きようとする人々、安全な土地を取り戻そうと働く人々を支援し、地雷そのものに反対するため「ピースボート地雷廃絶キャンペーン P-MAC」を立ち上げ、活動を開始しました。

2008年、P-MACは10周年を迎えました。これまでP-MACが支援し、カンボジアで地雷除去された土地は約89万平方メートル。除去後の土地は小学校や保健所として現地の人々に使われています。そして今年は、普段あまり語られないことがない地雷除去隊員の人々がどのような想いで活動しているかを知ってもらいたいと、女性地雷除去隊員のヤン・サンポスさんを招聘し、トークイベントを行いました。

和平合意から18年たつカンボジアですが、今多くの土地が地雷原のままで、人々は地雷被害と隣り合わせの生活を強いられています。P-MACでは、そこに暮らす人々や地雷除去活動をする人々と協力しながら、地雷除去と地雷廃絶のための活動を続けていきたいと思います。

今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。

P-MAC 2008 カレンダー

- コーケー遺跡・プラサー・クルス・レウン寺院の地雷除去活動開始（カンボジア）
- 第60回地球一周クルーズでカンボジアへの地雷検証ツアー
- C M A C副所長ヘン・ラタナ氏が第60回地球一周クルーズ乗船（ダナン～シンガポール）
- 100円キャンペーン街頭募金を12回実施

1月
January

- アースデイ東京 2008 にブース出展（東京）
- 100円キャンペーン街頭募金を54回実施

4月
April

- 岡山県吉備中央町・国立吉備高原職業リハビリテーションセンターで地雷教室開催
- 岡山県吉備中央町・加茂川中学校で地雷教室開催
- 岡山県吉備中央町・吉備高原学園高等学校、吉備高原小学校・吉川小学校で地雷教室開催
- 東京都台東区・石浜小学校で地雷教室開催
- 100円キャンペーン街頭募金を6回実施

7月
July

- 岐阜県高山市・国府中学校で地雷教室開催
- グローバルフェスタ JAPAN2008 にブース出展（東京）
- NPOまつり 2008 にブース出展（東京）
- クラスター爆弾廃絶を訴えるダイ・イン（第63回地球一周クルーズの船上、トルコ）
- 東京都品川区・浅間台小学校で地雷教室開催
- 100円キャンペーン街頭募金を20回実施

10月
October

- 兵庫県明石市・野々池中学校で地雷教室開催
- 東京都世田谷区・玉堤小学校で地雷教室開催
- 東京都狛江市・狛江第三中学校で地雷教室開催
- 100円キャンペーン街頭募金を23回実施

2月
February

- クラスター爆弾廃絶を呼びかける横断幕作成
- 第62回地球一周クルーズでカンボジアへの地雷検証ツアー
- 100円キャンペーン街頭募金を3回実施

5月
May

- プラサー・クルス・レウン寺院と次回支援先シェムリアップ州の小学校の視察（カンボジア）
- トークショー「カンボジアの大地をとりもどす女性たち」開催（東京、大阪、福岡）
- 大阪府大阪市・大國小学校で地雷教室開催
- 大阪府吹田市・社会福祉法人ぶくぶく福祉会で地雷教室開催
- 100円キャンペーン街頭募金を2回実施

8月
August

- 講演会・週末テラコヤ「地雷のなくしかた～ゼロから始める国際協力」開催（東京）
- 100円キャンペーン街頭募金を55回実施

3月
March

- コーケー遺跡・プラサー・クルス・レウン寺院の地雷除去活動終了（カンボジア）
- 神奈川県横浜市・旭中学校で地雷教室開催
- 100円キャンペーン街頭募金を1回実施

6月
June

- シェムリアップ州小学校地雷除去のための100円キャンペーンスタート
- シェムリアップ州の小学校地雷除去活動開始（カンボジア）
- 第63回地球一周クルーズでカンボジアへの地雷検証ツアー
- 100円キャンペーン街頭募金を12回実施

9月
September

- クラスター爆弾禁止条約調印式（ノルウェー・オスロ）
- シェムリアップ州の小学校地雷除去活動終了（カンボジア）
- 100円キャンペーン街頭募金を17回実施

12月
December

- 100円キャンペーン街頭募金を13回実施

11月
November

トークイベント 「カンボジアの大地をとりもどす女性たち」を開催

2008年夏、P-MACが支援を続けるカンボジア地雷除去団体「CMAC(カンボジア地雷行動センター)」から1人のディマイナー(地雷除去員)を招聘し、東京・大阪・福岡でトークショー「カンボジアの大地をとりもどす女性たち」を開催しました。今回来日したのは、地雷原で生まれ育ち、CMAC初の女性ディマイナーであるヤン・サンボスさん。自らの体験や仕事をとおして、カンボジアが抱える地雷や貧困の問題についてお話しくださいました。また、各地でピースボートボランティアスタッフがおこなう100円キャンペーン街頭募金に参加し、地雷をなくそうと活動している日本の若者とも交流しました。



- 写真左
- 写真中心上
- 写真中心下
- 写真右

現在は、ベトナム戦争当時に米軍により落とされた不発弾の探知作業を行っている。
東京・渋谷で行ったトークショーには多くの若者が参加した。
街頭募金活動にも参加した。左から二人目がサンボスさん。
来日中は広島の平和公園も訪れ、自ら折った鶴を供えた。



ヤン・サンボス
ディマイナー（地雷除去隊員）

1983年5月12日、カンボジアで最も地雷被害の多いといわれるバッタンバン州オーチャムロン村で、10人兄弟の7番目として生まれる。家が貧しかったため、7年生（中学校1年生）で学校を中退し農場で働くことになる。2004年、CMACが募集していた「地域地雷除去チーム」の一員として入隊。その後、地雷除去活動に関する様々なトレーニングを積み、現在はカンボジア東部プレイヴェン州で爆発物探知犬チームの一員として働いている。

私

は10人兄弟と両親の12人家族で育ちました。幼い頃、家の周辺は地雷原で、多くの村人が被害に遭っていました。

当時、人々は地雷や不発弾が危険なものということを知りませんでした。私も畑に落ちていた不発弾を素手でつかみ、邪魔にならない所に移動させていました。一日の仕事が終わり、刈り取った草などを燃やしてから家に帰ると、そちらの方向からバーン！バーン！と、音が聞こえてきました。火が風に乗って不発弾を置いた場所に燃え移り爆発したようですが、当時はそうだということも知りませんでした。そして田畠を耕していた時、鍬が地雷にあたり、爆発して被害に遭う人もいました。

私の父も地雷被害者です。夕方、畑仕事が終わって帰宅しようとした時、地雷を踏んでしまいました。父は右足を失いました。事故後は父が働けなくなつたため、母が働くことになりましたが収入は格段に減ってしまい、私も中学校1年生の時に学校を辞め、働きに出なければなりませんでした。

私が20才になった頃、CMACが女性ディマイナーを募集していることを知りました。CMACでは、地雷原に住む若い女性が故郷やその付近の地雷除去活動をすることで、家族と暮らしながら仕事ができるようにしようと考えていたのです。また、1ヶ月70米ドル（約7000円・2009年4月現在）の給料も支払われます。私たちにとっては大金です。私は、家族を救いたいという想い、そして今まで自分たちを苦しめてきた地雷をなくしたいという想いから、ディマイナーになる決心をしました。

私が一番最初に配属されたのは、故郷バッタンバン州の地雷原でした。私は女性だけで構成された地雷除去チームのリーダーに抜擢されました。ディマイナーというと、皆さんは力のある男性を思い浮かべるかもしれません。確かに地雷除去には体力が必要ですが、女性だと言うことで男性よりも劣っているとは限りません。私の経験上、女性ディマイナーの方が慎重に作業を行い、道具の手入れも怠りません。私が作業の中で一番大変だと思うのは、地雷を

見つけるために地面を掘る作業です。多くの地雷原はジャングルなどの草木が多く生えている場所なので、植物の根がじゃまになります。この根を切るのに意外にも力が必要なのです。男性に比べるとこの作業は大変ですが、それ以外では女性の方がディマイナーに向いているのではないかと思います。

多くの日本の方は、ディマイナーという仕事をしていて怖いと思うことはないかと質問します。確かに、地雷除去中のディマイナーによる事故は少なくありません。一步間違えば、地雷が爆発するかもしれない危険な作業です。でも、私は怖いとは思いません。適切なトレーニングを受け、今では自信を持ってこの仕事をしています。それよりも私が不安に思っていることは、海外からの支援がなくなるのではないかということです。地雷除去への金銭的な支援は全て海外からのものです。もし、支援がなくなれば、私たちは地雷除去活動ができなくなります。そして、それは私たちが仕事を失うということであり、多くの隊員が以前の貧しい生活に戻るということにも繋がります。だから私にとってはこの仕事をしていることよりも、支援がなくなる事の方が恐ろしいのです。

今回、私は幸運にも日本を訪れることができました。物価の違いや渡航手続きの難しさから、日本に来るということはカンボジア人にとってとても難しいことです。今回の来日で、私と同年代の日本人の人々と交流できたことは、本当に楽しかったです。そして、日本人の人々がカンボジアの地雷除去のために募金活動をしてくれていることを知ることができたのは、とても良かったです。わたしは、これからもディマイナーとして活動を続けていきます。どうぞ、日本の方々も地雷除去のために支援を続けてください。

トークショーの記録（一部抜粋）

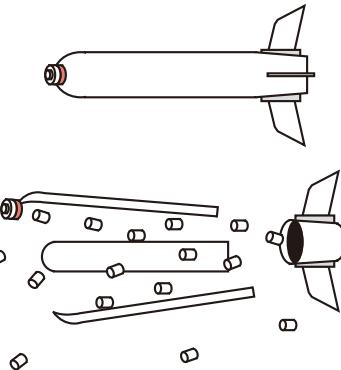
クラスター爆弾禁止キャンペーン

2002年3月、私たちはアメリカによる空爆終了直後のアフガニスタンを訪れました。長年の内戦により、多くの地雷が埋められ、町は廃墟と化していました。病院を訪れた私たちが見たものは、地雷や不発弾で手足を奪われ、生きる希望を失った人々。中でも目立ったのは、アメリカ軍が投下したクラスター爆弾による被害者でした。「テロとの戦争」と称し、アフガニスタンに投下されたクラスター爆弾の被害者は、ほとんどが戦争とは関係のない民間人。そして、その被害は今も続いています。P-MACでは地雷と同様、多くの民間人を無惨に殺傷し、戦後も被害を生み続けるクラスター爆弾の存在そのものに反対し、「クラスター爆弾禁止キャンペーン」を立ち上げました。

クラスター爆弾とは？

クラスター爆弾は、ひとつの爆弾の中に200個近い子爆弾が入っています。爆撃機などから投下されると空中で破裂し、子爆弾が広範囲にばらまかれ、地上で爆発します。確認されただけでもこれまでにカンボジアやアフガニスタン、イラクなど25の国と地域で使われました（2009年1月現在）。

クラスター爆弾は、広い範囲にばらまかれるため、戦争に直接関係のない人々が被害に遭うことがとても多い兵器です。クラスター爆弾の被害に遭うと、死亡する確率も高く、命が助かったとしても手や足を失ったり、体中に傷跡が残ったりと、深刻な障害が残ります。また、子爆弾は不発弾となつて残ることが多く、戦争が終わった後も被害に遭う人が絶えません。クラスター爆弾の被害者のうち、実に98%は民間人と言われています。



クラスター爆弾禁止条約が調印されました！

2007年2月、クラスター爆弾の被害に危機感を抱いた各国政府やNGOが、ノルウェイのオスロに集まり会議を開きました。そして、2008年末までにクラスター爆弾禁止条約を作ることを宣言。その後、条約作りに賛同する国々が会議を重ね、2008年5月には条約案が完成しました。同年12月3～4日にはオスロで調印式が行われ、日本を含む94カ国（12月4日時点）が条約に署名しました。

この条約作りには世界中のNGOが参加し、各国で条約締結を求めるイベントが繰り広げられ、各方面から「クラスター爆弾禁止」の声を訴え続けた結果、国際社会を動かし、今回の調印に至ったものです。



P-MACこれまでの主なキャンペーン



2003年 5月15日 **自衛隊のクラスター爆弾保有に関する公開質問状を石破防衛庁長官(当時)に提出**

航空自衛隊による148億円分のクラスター爆弾保有が明らかになったことを受け、公開質問状を提出。クラスター爆弾の即時全面廃棄を訴えた。

2003年 10月7日 **「地雷もクラスター爆弾もない世界を」アメリカ大使館前で反戦スライドショー**

アメリカによるアフガニスタン攻撃後、多くの民間人がクラスター爆弾の被害に遭っている。クラスター爆弾廃絶とアメリカへの反戦のメッセージを込めて、アメリカ大使館前(東京)でアフガニスタンの被害状況を撮った写真のスライドショーを行った。

2008年 4月~5月 **クラスター爆弾廃絶に賛同する1000人の顔を集めた横断幕作成**

JCBL(地雷廃絶日本キャンペーン)のメンバー団体として、ピースボートが中心となりクラスター爆弾禁止に賛同する日本の人々の顔写真を集め、2mの横断幕を作成。約1000人の顔写真を集めることができ、できあがった横断幕はクラスター爆弾禁止に向けた会議(アイルランド・ダブリン)の会場で展示された。

2003年 5月17日 **「クラスター爆弾なんていらない！」銀座でデモ**

自衛隊のクラスター爆弾保有に抗議して、全長4mの小爆弾模型を持ち、東京・銀座で約50人がデモを行った。

2007年 11月5日 **「11月5日はクラスター爆弾廃絶の日」東京・大阪・福岡で反戦スライドショー**

クラスター爆弾禁止に向けた会議(オーストリア・ウィーン)が行われる丁度1ヶ月前のこの日、世界各地で禁止を求めるイベントが行われた。日本では、クラスター爆弾について認知度が低いことから、全国3カ所の駅前でアフガニスタンのスライドショーを投影し、アピールした。

2008年 10月27日 **ピースボート船上でクラスター爆弾禁止を求めるダイ・イン**

この日、世界各地でクラスター爆弾廃絶、そして各国にクラスター爆弾禁止条約への署名を呼びかけるためのイベントが行われた。ピースボートでは「第63回ピースボート地球一周の船旅」の船上で、約100人が参加してダイ・インを行った。

クラスター爆弾全面禁止条約の締結に関するピースボート声明

2008年12月、ノルウェイ・オスロにてクラスター爆弾禁止条約の調印式が行われ、日本を含む94カ国が調印しました。これは、紛争のない平和な社会の実現にむけ極めて意味のある前進です。この条約に、多くの国が行動した背景には、近年の戦争によって多くの民間人がクラスター爆弾に代表される無差別殺傷兵器によって命を奪われたこと、そして、米国主導で行われた「正義のための戦争」の実相があると私たちは考えています。また、日本国防省が、同条約に調印するにあたり保有する一切のクラスター爆弾を廃棄すると明言したことは、クラスター爆弾の保有、全面撤廃を求めてきたNGOとして大変安堵しております。日本は国際社会において、人道主義を高く掲げる平和国家であります。今回の決断は、現在もなお同爆弾を保有している国家への平和的な圧力となってしかるべきでしょう。対人地雷を禁止したオタワ条約調印に続く歴史的な決断だと高く評価します。しかし、これが最終的なゴールではないことは言うまでもありません。中でもクラスター爆弾の被害者への救済は立ち後れています。そして、同爆弾の被害者が一番多く存在するのはレバノン、ラオス、アフガニスタンなどアジアの国々です。各國は一日も早い被害者救援に乗り出し、何より世界最大の軍事国家であり、同爆弾の最大保有国である米国に対して、同条約への調印を強く働きかけてゆことを求めます。

2008年12月9日ピースボート

2008/10/27



PEACE BOAT

障害者支援のためのフェアトレードを始めました。

P-MACでは、地雷被害者を始めとした障害者への支援を行っています。これまでに義足支援や障害者の自立支援を行ってきました。カンボジアでは長年の内戦の影響から約43,000人の地雷被害者と約50,000人のポリオ患者が生活しています。その多くが四肢を失ったり歩行が困難になった人々。近年は急激な自動車の増加に伴い、交通事故による四肢切断者も急増しています。カンボジアは、世界で最も障害者の割合が多い国の1つです。

しかし、障害者に対する保証制度が整っていないカンボジアでは、多くの障害者は苦しい生活を強いられています。また障害者に対する差別も根強く残っており、家族や地域から見捨てられる人々も少なくありません。近年、障害者を支援するための様々なNGOが立ち上げられ、活動を始めています。

2007年2月、P-MACではカンボジアの首都プノンペンにあるNGO「カンボジア・ハンディクラフト・アソシエーション(CHA)」を訪れました。ここは、地雷被害者やポリオ患者のために足が不自由な女性たちを自立支援するNGO。約20人の女性たちがミシンの前に座り、色とりどりのシルクでバッグやぬいぐるみを作っていました。何よりも印象的だったのは、彼女たちがとても明るく、楽しみながら仕事をしていること。CHAで洋裁やビジネスのトレーニングを受け、仲間と生活する過程で、彼女たちは将来への希望や生きる喜びを見つけています。

P-MACではCHAの女性たちが作ったシルク製品のフェアトレードをスタートしました。CHAでは売り上げは、全て等しくCHAで働く人々の給料となります。商品を購入することで、自立しようとする障害者を支援することができます。

※フェアトレード Fair Trade

公平貿易と訳されます。発展途上国で経済的、社会的に弱い立場に置かれている人々から適正な価格で製品を購入することにより、彼らの生活向上や自立を支援する仕組みです。お買い物する事でできる身近な国際協力の1つです。





くま

高さ約 21 cm × 幅約 13 cm
眺めていると思わず笑顔がこぼれそうになります。いつまでも自分の届く場所に飾ってあげてください。無地とカンボジア柄があります。

ネックレス

全長約 113 cm
ビーズ部分のみ約 55 cm

ブレスレット

全長約 58 cm / ビーズ部分のみ約 20 cm
コロンとした大ぶりビーズをシルクの布で包み込んだネックレスとブレスレットのセットです。同色セットでお届けします。

シュシュ

カラフルな無地と和服にも合わせやすいカンボジア柄があります。

ポーチ

縦約 12 cm × 横約 22 cm
化粧ポーチ、小物入れ、ふくさにだって使えます。

CHAとのコラボ商品第一弾が完成!



[価格] 3,800 円 / 1セット
(送料込みの金額です)



ご注文方法

お電話、またはメールでお問い合わせください。

ピースボート 担当：森田

TEL:03-3363-7561

Mail:pmac@peaceboat.gr.jp

- ・素材：シルク、ビーズ、他
- ・色、柄はお任せください。様々な色と伝統的なカンボジア柄をご用意しています。
- ・セットのみの販売です。
- ・すべて手作りのため、サイズに多少のばらつきがあります。ご了承ください。
- ・不良品以外の返品はご遠慮ください。
- ・限定 50 セットです。売り切れの際はご容赦ください。商品内容を変えた第 2 弾も近々販売予定です。

CHA カンボジア・ハンディクラフト・アソシエーション
Cambodian Handicraft Association for Landmine and Polio Disabled

地雷被害者やポリオによる障害者の女性が手に職をつけて自立できるようにと、設立された NGO。これまでに 200 名以上が CHA を卒業し、社会復帰をはたしました。また CHA ではトレーニングだけでなく、みんなでビーチへ遊びに行ったり、映画を見たり、水泳をしたりしています。CHA へ来た多くの障害者は初め、自分の殻に閉じこもり、人と接することを嫌います。障害者であるという肉体的な苦痛だけでなく差別などで精神的にも傷ついているためです。CHA で仲間と一緒に、これらの活動を楽しむことで、彼女たちは明るく前向きになることができます。これまで、希望もなく、教育もなく、家もなく、技術もなく、友達もなく、お金もなく、ただ道端に座っているだけだった女性たちが、シルク製品を作るアーティストとして歩み出しています。<http://www3.online.com.kh/users/wthanchashop/>





カンボジアから地雷をなくそう 100円キャンペーン これまでの支援報告



Phteah Rung
プテア・ルング村小学校、地雷除去と小学校建設
費用：\$ 29,000.00- 2002年3月完成
除去面積：15,000 m²
除去数：対人地雷 16 個、不発弾 10 個

地雷除去には気の遠くなるような時間と労力がかかります。

しかし、地雷除去にかかるコストは1平方メートルあたり100円。

そこで P-MAC では、

街頭募金「カンボジアから地雷をなくそう100円キャンペーン」を展開。

集まった募金は現地地雷除去団体

「CMAC（カンボジア地雷行動センター）」へ送り、

2008年12月までに約89万平方メートル（東京ドーム19個分）の土地から

400個以上の地雷や不発弾が除去されました。

a

Stoeng Thmey
ストエン・トメイ村小学校、地雷除去
費用：\$ 14,606.00- 2002年10月完成
除去面積：24,167 m²
除去数：対人地雷 13 個、不発弾 8 個、手製地雷 1 個

b

Koh Ker

コーケー村小学校、地雷除去と小学校建設
費用：\$ 26,199.60- 2005年9月完成
除去面積：68,848 m²
除去数：対人地雷 11 個、手製地雷 3 個、不発弾 2 個

コーケー村とコンパイツ村をつなぐ道路、地雷除去
費用：\$ 24,670.03- 2006年12月完成
除去面積：196,168 m²
除去数：対人地雷 7 個、不発弾 14 個

Chamka Chrey Cheung
チュンカ・チュレイ・チュング村保健所、地雷除去
費用：\$ 9,440.71- 2003年7月完成
除去面積：13,498 m²
除去数：対人地雷 4 個、不発弾 118 個

c

コーケー遺跡「プラサー・スロス」、地雷除去
費用：\$ 32,477.88- 2007年6月完成
除去面積：177,638 m²
除去数：対人地雷 12 個、不発弾 12 個

Osampor II
オサンポール II 村小学校、地雷除去と小学校建設
費用：\$111,623.63- 2006年4月完成
除去面積：54,461 m²
除去数：対人地雷 65 個、不発弾 26 個

d

コーケー遺跡「プラサー・ロヴェイ」と「プラサー・プラム・ピエム」、地雷除去
費用：\$ 29,670.41- 2007年11月完成
除去面積：107,791 m²
除去数：対人地雷 14 個、不発弾 30 個

※費用は全てアメリカドルです。

コーケー遺跡「プラサークルスレウン」、地雷除去
費用：\$ 58226.62 2008年6月完成
除去面積：151.163 平方メートル
除去数：対人地雷 22 個、不発弾 35 個

シェムリアップ州クワオ地区小学校 2 校、地雷除去
費用：\$ 31079.99 2008年12月完成
除去面積：77.738 平方メートル
除去数：対人地雷 15 個、不発弾 61 個

e

支援が終了した小学校を訪問しました

「ピースボート第64回地球一周クルーズ」の参加者約20名が2009年1月23日、地雷除去支援が終わった小学校を訪問しました。アンコールワットの町・シェムリアップから車で1時間半、シェムリアップ州クワオ地区クナーミンチェイ小学校に到着。200名の子どもたちが迎えてくれました。この小学校は地雷原の中に建てられていましたが、100円キャンペーン募金により地雷除去が行われ、今は広い校庭を走り回ることができます。しかし、小学校は細い木と干し草で作られた校舎のため、雨が降るたびに休校となります。学校の運営費は1年につきわざか300米ドル（約3万円・2009年4月現在）しかなく、教材もほとんどありません。私たちがノートと鉛筆を生徒1人1人に手渡すと、とてもうれしそうにしていました。

次に車で10分ほどの所にあるオーフ村小学校を訪問。この学校でも地雷除去が行われ、現在は351人の生徒が通っています。教材などはほとんどありませんが、「楽しい元気な学校」を目標に10人の先生ががんばっています。

どちらの村も子どもたちが暮らす家周辺は多くが地雷原。大人たちは子どもが地雷被害にあわないか、とても心配しています。今後は、多くの村で行われ地雷被害者減少に役立っている「地雷回避教育」が小学校などで行われる予定です。そして、2つの学校での校舎建設も計画されています。

（上 泰歩）

100円キャンペーンには全国の多くの学校や様々な団体の方にもご協力頂いています。

そんな中の1つ、岐阜県にある笠松町立笠松中学校の生徒さんが取り組んだ活動をご紹介します。

2008年度の3年2組は、修学旅行で広島の平和資料館や原爆ドームを訪れました。そして被爆者の方の話を聞きして、戦争の悲惨さ、むごさを改めて痛感し、現在の平和は多くの人々の犠牲と努力によって生み出されたものであることを知りました。そして受験勉強で大変な私たちですが、「本当に自分の事だけでいいのか？」と考えるようになりました。自分のことでいっぱいいっぱいの私たちだけど、もう15歳!! 世界に目を向けてもいい年齢です。私たち中学3年生にも「何かできることはないか？」とクラスで考えました。

そしてインターネットで100円キャンペーンを知り、クラス全員で募金活動に取り組むことを決意しました。もちろん初めての挑戦です。ポスターも募金箱もチラシもすべて手作りで、1ヶ月間かけ学校や地域で募金活動を行いました。そして、締めくくりとして2008年12月27日には「カラフルタウン岐阜」（岐阜市の大型商業施設）で、募金活動と「平和募金コンサート」を開き合唱をしました。募金総額は149,127円。本当に協力して頂いた多くの方に感謝の気持ちでいっぱいです。私たちは皆様からいただいた「あたたかい心」をカンボジアに届けなければならぬと思いました。私たちの集めた募金でカンボジアから地雷がなくなり、子どもたちが笑顔で、安心して走り回れる日が来ることを心から願っています。

岐阜県笠松町立笠松中学校

2008年度3年2組学級委員 葛谷佳晃／坪井梨恵



カンボジアから地雷をなくそう 100円 キャンペーン



郵便振替口座	00130-3-557600
加入者名	ピースボート地雷廃絶キャンペーン P-MAC

「なんだろう地雷出前教室」 出前先 募集中!

P-MACで活動するスタッフが、地雷問題についてわかりやすく出前授業します。地雷原に暮らす人々、地雷被害者、除去活動をする人々の声、そして今私たちができるこをお伝えします。これまで小学校、大学、地域の公民館、職場など、様々な場所で行っています。ご依頼、ご質問は「ピースボートセンターとうきょう」までご連絡ください。

ピースボート地雷廃絶キャンペーン P-MAC 報告書 2009

発行 ピースボート地雷廃絶キャンペーン P-MAC

編集 森田幸子

発行日 2009年5月

写真 内田和稔・牛島有・Iain Naughton・ピースボート

連絡先 ピースボートセンターとうきょう

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1

TEL 03-3363-7561

FAX 03-3363-7562

E-MAIL pmac@peaceboat.gr.jp

URL <http://www.peaceboat.org/project/jirai>

